



町長エッセイ



およそ22万5,200人。これは7月25・26日に開催された第67回小川町七夕まつりの人出です。猛暑の中ではありますが、好天に恵まれ、また細川紙のユネスコ無形文化遺産登録効果もあり、この来客数に結びついたと思いますが、いずれにしても「小川町における最大のイベント」であることを数字が示してくれています。

今回は、ユネスコ登録後、初の七夕まつりで、和紙の飾りや紙漉きに関わる創作がたくさん見受けられました。

35,000羽の折鶴等、趣向を凝らした何本もの竹飾りが駅前の人々を迎え、街を彩った短冊、クス玉、細川紙で作られた3メートルを超すねぶた(写真)等…。それらを見るにつけ、

七夕まつりを大切に受け継いできた町民の方々と、それを支える大勢のスタッフやボランティアなくしては、この一大行事が成り立たないことを実感しました。

また、町内各会所の子どもみこしとスポーツ少年団の樽みこしでは、あの上での子供達の「ワッショイ!ワッショイ!」の元気さに、思わず声援を送りました。

和紙の町にふさわしい町民参加型のまつりを、今後も更に盛り上げていきたいと思っています。

